

# 「修理作業とその受渡しを通して、地域との関わりを深める」

☑ 日々受刑者が行う刑務作業を通して、地域社会に貢献することできないだろうか。刑務所が地域の役に立つことはできないだろうか。青森刑務所ではいつも考えていました。

そんな中、青森刑務所で木工の作業を行っていると聞いた近隣の小学校から、学校で使っている木製備品の修理について問い合わせがあったことが、この取り組みのきっかけでした。

☑ 小学校で長年使われてきた木製のトンボを青森刑務所でお預かりさせていただき、修理作業が始まりました。

受刑者は、作業技官（刑務作業の技術的な面を指導・監督する職員）や工場担当の刑務官の指導を受けながら、ひびが入ったり欠けていたりするトンボを一本ずつ丁寧に修理していきます。



## 青森刑務所 × 小学校



### 刑務作業での 小学校の備品の修繕



☑ 修理を終え、新品のようにきれいになった木製トンボ7本は、受刑者から依頼のあった学校の先生に直接お渡ししました。

刑務官たちに見守られながら木製トンボを受渡した受刑者は、先生から「きれいに直してくれてとてもうれしい。」と感謝の言葉をいただきました。

受刑者にとっては、自分たちの作業が誰かのためになったということを実感する大切な機会になりました。

☑ この作業をきっかけに、近隣の他の学校からも様々な備品の修理の依頼をいただき、地域ゆかりの文化である「荒馬踊り」に用いる木馬の人形や、額縁、暗幕、机、木製ソファなど、様々な修理作業を行うことができました。

学校の中の「ちょっとした困りごと」をきっかけに、たくさんの方々の協力をいただきながら、刑務所と地域の関わりが深まった取り組みです。